

# みやづま 宮妻パラグライダークラブ

パラグライダーのライセンスを取得した有志が集まり約28年前に発足した同好会です。四日市市水沢町を拠点に、約50名が大空散歩を楽しみながら、町民との交流やパラグライダーの普及に努めています。



宮妻パラグライダークラブ 代表  
うさみ よしゆき  
宇佐美 嘉幸さん

お問い合わせ

携帯 090-4859-4552

三重県内で活躍するグループを紹介する「いま、グループネット」。  
今回は、「宮妻パラグライダークラブ」を紹介しします。この日は、同クラブの代表の宇佐美 嘉幸さんにお話を伺いました。

## ——メンバーはどういう方たちですか。

宇佐美：パラグライダースクールでライセンスを取った人たちが、東海・近畿地方と多方面から集まり活動しています。平均年齢は60歳ほどで、28歳から75歳と幅広いですよ。定年退職して、これから楽しめる趣味を求めて始めた人も多いです。

## ——活動の様子を教えてくださいませんか。

宇佐美：普段は、四日市市の西にある標高875メートルの雲母峰きららみねからテイクオフ（飛び立つこと）して、水沢町浄水場に隣接する広場にランディング（地面に着地すること）しています。皆さん30分から3時間ほど空の飛行を楽しんでいます。ときにはメンバーでサポートし合いながら、滋賀方面などの遠方へ飛行することもあります。メンバーのなかには、ネパールなど海外へ行って飛ぶ人もいますよ。日本では味わえないスケール感に魅了されているようです。

## ——皆さんが夢中になる

パラグライダーの魅力を教えてください。

宇佐美：私は、空を飛ぶ爽快感や、肌



宮妻パラグライダークラブ  
事務局メンバー

す人もいます。それぞれの感性で、パラグライダーを楽しんでいます。

## ——まさに地上では味わえない

非日常的な感覚ですね。

クラブでは飛行以外の活動は

されていますか？

宇佐美：はい、水沢町の上空を飛んでいるので町民の方へのご理解と感謝を表す意味で、地域との交流活動を積極的にを行っています。例えば、町の文化祭でパラグライダーを展示して実物を見てもらったり、お祭りで餅つきの手伝いをしています。町の方のご理解があつてこそ、活動を続けられると思つています。

## ——クラブの今後の目標や予定はありますか。

宇佐美：クラブには若い人が少ないので、幅広い世代がパラグライダーに興味を持ってくれたら嬉しいですね。今年の9月30日（雨天・荒天の場合は10月14日）に、みえスポーツフェスティバルの企画の一つとして、白子港緑地でパラグライダー浮上体験会を開きます。体がふわっと宙に浮く感覚を多くのの人に楽しんでもらって、興味のきっかけになればと思つています。

——ありがとうございました。パラグライダーの本当の魅力は、体験してこそ実感できるものと感じたお話でした。自分たちが楽しむだけでなく、地域との交流を大切にされている姿勢も印象的でした。



雲母峰からテイクオフ※



テイクオフの準備をするメンバー※



水沢町文化祭で展示※



浮上体験会の様子※